

## 地理

### 問題 I

#### 【出題の意図】

地形図の読図や、気温や降水量に基づく世界の気候の理解は、基本的な内容である。

問 1 では氾濫原の地形図を読み解き、地形条件と (1) 集落の分布, (2) 多くを占める土地利用, (3) 想定される自然災害とその対策との関係について説明を求めた。

問 2 では、ほぼ同緯度に位置する、サンフランシスコ、ソウル、チュニス、新潟の月別の平均気温と降水量から、(1) 各都市の判定, (2) 新潟のハイサーグラフの作図, (3) 季節風が日本列島の日本海沿岸地域の冬季の気候に与える影響の説明, (4) 日本列島に広く分布する土壌の特徴の説明を求めた。

#### 【正解・解答例（解答のポイント）】

問 2

(1) ア：サンフランシスコ

イ：ソウル

ウ：新潟

エ：チュニス

(3) 季節風（モンスーン）

(4) 褐色森林土

## 問題 II

### 【出題の意図と解答例（解答のポイント）】

#### 問 1

都市との関係から見た地域の多様性に関する基本的理解を、近年の日本における農村や農業をめぐる諸課題に関連させた形で問うている。具体例として、Aは愛知県長久手市周辺、Bは愛知県設楽町周辺を想定することが可能であり、枝問（1）の正答は、①がA、②がBである。

#### 問 2

基本的な機能からみた都市の特徴について、都市の類型（地方中心都市である金沢市、ニュータウンを擁する大都市圏郊外地域の豊中市、工業都市である豊田市）、都市システムと中心地機能（中枢管理機能）、人口や産業の全国的・地域的な分布なども念頭に置きながら、表が示す数値情報を参照して的確に読み取り、簡潔に整理して説明できるかどうかを問うた。同程度の人口を擁する諸都市の間でも、全国的あるいは地域的なスケールにおける位置関係（配置や役割）によって、それぞれの特徴は様々に変わり得ることの理解が重要であり、枝問（1）の正答は、Xが金沢市、Yが豊中市、Zが豊田市である。

## 問題 III

### 【出題の意図】

本問は、人口・経済・環境に関する大問であり、北アメリカ及び南アメリカにおける地理的事象を問うた。具体的には、北アメリカ・南アメリカに在留する日本人の職業別の特徴（問1）、ブラジルにおける大豆生産地域の発展（問2）、高山都市における自然環境（問3）、ボリビアにおける金属資源の種類と利用（問4）、アメリカ合衆国におけるヒスパニックの地理的分布（問5）についてそれぞれ問うた。

### 【正解・解答例（解答のポイント）】

問1

**ア** アフリカ    **イ** アジア    **ウ** 南アメリカ    **エ** 北アメリカ

問2

(1) **b**

(2) セラードと呼ばれる低木林地域において、日本の ODA を受けて原野の大規模開発（土壌改良や社会資本整備）が進行し、大豆の大規模栽培地域が形成された点などを考慮して解答を導く。

(3) サバナ気候 (Aw)

問3

(1) メキシコシティ

(2) ディーゼル車数の制限、自動車の排ガス検査の義務づけ、市街地への自動車の乗り入れの制限などが実施された点を考慮して解答を導く。

(3) 低緯度では標高が高い地域でも低地と同様に気温の年較差が小さく、たとえばボリビアのラパスやエクアドルのキトなどでは常春と呼ばれる暮らしやすい気候がみられる点などを考慮して解答を導く。

問4

**カ** ウユニ塩原    **キ** 隆起    **ク** リチウム    **ケ** 分布（埋蔵）

問5

ヒスパニックはカリフォルニア州などのメキシコ国境付近やカリブ海諸国に近いフロリダ半島に集中している点、その多くが収穫などの農作業、工場での単純作業といった低賃金労働の多くを担っている点などを考慮して解答を導く。